

ベンチャー、大手とタッグ

金融関連のIT（情報技術）に強いベンチャー企業が銀行や大手企業と連携する動きが広がっている。家計管理アプリ（応用ソフト）のマネーフォワード（東京・港）は地方銀行と組み、個人客向けの家計管理サービスを提供する。ITと金融が融合した「フィンテック」が身近になり、利便性が高い金融サービスが受けられるようになる。

マネーフォワードは中国地方と北九州が地盤の山口フィナンシャルグループ

ープ（FG）などと資本か、福島県が地盤の東邦・業務提携した。第三者銀行、三井物産などから割当増資で山口FGのほ計6億円を調達する。

金融とIT融合「フィンテック」

「フィンテック」を巡る連携は多様な分野に広がる

主なベンチャー企業	大手企業などとの提携内容
マネーフォワード	地方銀行向けに専用の家計管理アプリを開発
マネーツリー	日本IBMを通じて金融機関にクレジットカード利用などの情報収集技術を提供
freee	NTTデータと組み、ネット銀行のデータ照会で手間を削減
リキッド	指紋を使った決済時の認証技術を開発

家計管理など便利に

山口FGの顧客向けにト銀行をシステム上で金融機関やクレジットカードの入出金を自動で記録し家計を管理できる専用アプリを開発し、2016年3月までに提供する。今後も地銀との提携を進めて全国に利用者を広げたい考えだ。

マネーフォワードはクラウド会計のfreee（フリー、東京・品川）とともにNTTデータとも連携する。

NTTデータがベンチャー両社の家計管理やクラウド会計アプリとネット銀行をシステム上でひもづける。16年3月までにアプリで口座残高や入出金記録を照会する際のIDやパスワード入力を不要にする。

資産管理アプリのマネーツリー（東京・渋谷）は月内に日本IBMと提携する。アプリを通じて銀行の利用者が残高照会やクレジットカードの明細データの確認をできる技術を日本IBMのクラウドを通じて公開する。金融機関がアプリを独自開発するのに役立てる。

マネーツリー（東京・品川）は月内に日本IBMと提携する。アプリを通じて銀行の利用者が残高照会やクレジットカードの明細データの確認をできる技術を日本IBMのクラウドを通じて公開する。金融機関がアプリを独自開発するのに役立てる。